

佛光山が被災地区に送る救援物資を準備する

【人間社記者如昱 東京報導】 2011/3/23

宮城県気仙沼市内の「仙翁寺」と「清涼寺」の二つの寺院は地震発生後、1000人余りの被災者を受けいれている。しかし、3月11日から23日まで応援物資や食料を何も受け取っていなかった。そのため、東京大学丘山新教授が東京佛光山寺に物資の援助を要請した。そこで佛光山本栖寺では22日、如泉法師を始め国際佛光会神奈川分会の会員20名余りが6トンの食品を分類し、23日の午後、10トントラック5台に、暖房器具200個、発電機298個、6トンの食料品を救援物資集積所まで運んだ。また、24日はマレーシア佛光山で2日間に渡って集めたカップ麺7千個とココア5万杯分を再び被災地区に送る予定である。その他に、実際に避難所で必要な物を調べるために、本栖寺住持満潤法師、東京佛光山寺住持覚用法師、大阪佛光山寺監寺如愷法師は24日午前、特別通行許可書を取得し、佛光会のリーダー白文美さんたちと共に新鮮なオレンジ1000個、すぐに食べられる白米1500個、パン1000個、そして心を穏やかにしていただくために「平安符」1000枚などを詰め被災地に向かった。東京池袋から車で7時間の予定で出発した。被害の最も激しかった宮城県気仙沼市及び仙台市若林区に向かい、被災者が一番必要としている物を調べ、提供したいと思っている。

